

新潟市美術館・新津美術館学芸員による

美術講座

2025

時間 14:00～15:30 (開場13:30)

場所 新潟市美術館 2F 講堂

聴講無料 / 申し込み不要 / 定員80名

専門的に研究していること、最近の
関心ごと、展覧会に関連すること……
学芸員がちょっとディープな美術の
いろいろをお話しします。

今年度は新津美術館の学芸員と合同で開催！
全11回の盛り沢山な内容でお送りします。
お好きな講座にご参加ください。

お問い合わせ

新潟市美術館
〒951-8556 新潟市中央区西大畑町5191-9
TEL: 025-223-1622 (受付時間9:30～17:15)
FAX: 025-228-3051
museum@city.niigata.lg.jp
<https://www.ncam.jp/>



新潟市美術館

Niigata City Art Museum

9 / 20 (土) 藤井 素彦 (新潟市美術館 学芸員)

パブリック・コレクションの理念と現実

11 / 8 (土) 荒井 直美 (新潟市美術館 学芸員)

ファッショナブルな絵画 ー美術と流行

11/15 (土) 滝沢 恭司 (新潟市美術館 特任館長)

新潟を描いた版画家1 川瀬巴水

11/23 (日・祝) 上池 仁子 (新津美術館 学芸員)

画家・阿部展也 1950年代の「課外活動」

11/29 (土) 石月 裕子 (新津美術館 学芸員)

異文化が融合した街 トレド

12 / 6 (土) 小野 百合香 (新津美術館 学芸員)

西洋美術にみるシェイクスピアー19世紀英国を中心に

12/13 (土) 滝沢 恭司 (新潟市美術館 特任館長)

新潟を描いた版画家2 織田一磨

12/20 (土) 大野 智世 (新津美術館 学芸員)

漫画家・高野文子の活動

2 / 15 (日) 藤井 素彦 (新潟市美術館 学芸員)

美術史で歩く新潟

2 / 28 (土) 山岸 亜友美 (新津美術館 学芸員)

Ahoj! 海外の絵本原画

3 / 15 (日) 藤井 素彦 (新潟市美術館 学芸員)

セメント彫刻小史

*タイトルや内容は変更となる場合がございます

美術講座2025

時間 14:00～15:30（開場13:30）

場所 新潟市美術館 2 F 講堂

聴講無料 / 申し込み不要 / 定員80名

*タイトルや内容は変更となる場合がございます

11/8（土） 荒井 直美（新潟市美術館 学芸員） ファッションブルな絵画 ―美術と流行

巷に流行る風俗を画家たちは巧みに画面に取り入れてきました。そのものずばりのファッションばかりでなく、大衆の求めるテーマにも敏感に反応してきたのです。時代を経た現在では見えにくくなっている当時の流行を、開催中の「はじめましての西洋絵画」展出品作品を織り交ぜながら読み解きます。

11/23（日・祝） 上池 仁子（新津美術館 学芸員） 画家・阿部展也 1950年代の「課外活動」

五泉市出身の画家、阿部展也（のぶや）。1950年代には創作の傍ら、インドや欧米を訪問し、アメリカ美術の入門書執筆、ユーゴスラヴィア墓石彫刻の調査などにも精力的に取り組みました。同時期絵画との関連も交えて、それら「課外活動」を紹介します。

12/6（土） 小野 百合香（新津美術館 学芸員） 西洋美術にみるシェイクスピア―19世紀英国を中心に

長きに渡り画家たちにインスピレーションを与えた劇作家シェイクスピア（1564～1616）。本講座ではシェイクスピア戯曲を題材にした美術作品を取り上げ、19世紀英国の画家を中心に、その多様で魅力的な表現をご紹介します。

12/20（土） 大野 智世（新津美術館 学芸員） 漫画家・高野文子の活動

高野文子が描く漫画は、一般読者のみならず同業者や評論家にも大きな衝撃を与えてきました。高野の作品がどのようなコンテキストのもとに生まれ、語られてきたのか、活動の場の推移からその特徴を探ります。

2/28（土） 山岸 亜友美（新津美術館 学芸員） Ahoj！海外の絵本原画

新津美術館は、世界的に権威ある「プラチスラバ世界絵本原画展」に出品された海外作家の絵本原画を54点所蔵しています。他館にあまり類例のないこのコレクションについて、調査の過程や成果をお話します。

9/20（土） 藤井 素彦（新潟市美術館 学芸員） パブリック・コレクションの理念と現実

美術館・博物館が収集・保存するコレクションは、規模こそ様々であれ、それぞれが不特定多数の人々に共有される「記憶／歴史」となることを期したものははずです。明治以降の我が国のパブリック・コレクションをめぐる幾つかの事例をご紹介します。その上で、当館のコレクションについても、なるべく手前味噌にならないようにお話ししたいと思います。

11/15（土） 滝沢 恭司（新潟市美術館 特任館長） 新潟を描いた版画家1 川瀬巴水

近年人気が急上昇している「新版画」。その代表的版画家といえは川瀬巴水（1883～1957）。全国を旅して取材した風景を木版画に表し、旅情詩人と称されたこの版画家について、新潟を描いた作品を織り込みつつ、仕事全般を紹介します。

11/29（土） 石月 裕子（新津美術館 学芸員） 異文化が融合した街 トレド

何世紀にもわたりキリスト教徒・イスラム教徒・ユダヤ教徒が共存していたために、独特の文化が育まれた街トレド。その歴史を追いつつ、スペイン・カトリックの大本山である大聖堂を中心に旧市街をご案内します。

12/13（土） 滝沢 恭司（新潟市美術館 特任館長） 新潟を描いた版画家2 織田一磨

昭和の初め、新潟版画同好会の求めに応じて織田一磨（1882～1956）が新潟を訪れ、市内の風景を版画に表しました。織田は北斎を中心に浮世絵版画を研究しつつ、主に明治から昭和にかけて大きく変わる東京の風景を描き留めた石版画家です。3代目萬代橋の架橋工事が進められるなかまだ使用されている2代目萬代橋や、新潟カトリック教会完成直後の風景などを描いた石版画を含め、織田の主要な仕事を振り返りたいと思います。

2/15（日） 藤井 素彦（新潟市美術館 学芸員） 美術史で歩く新潟

ここで話題にする人々は、誰一人として新潟出身ではありません。彼らは新潟を通り過ぎただけなのですが、その足跡は意外に身近なところに残っています。名前は知っているけれど、初めて聞くようなエピソード。知らない人ではあるけれど、けっこう面白い話。話題にする予定の人々；川村清雄・岡倉天心・中原悌二郎・柳宗悦・柳原義達・その他。

3/15（日） 藤井 素彦（新潟市美術館 学芸員） セメント彫刻小史

我が国最古のコンクリート製「擬木」は、明治38年（1905）竣工のフランスから輸入されたものでした。同じ頃から、セメント製のモニュメントも各地に増えていきます。戦後のセメント彫刻は学校教育と結び付き、新潟市内の小中学校にも数多くのセメント像が建てられました。美術館では取り上げにくい、セメント彫刻の歴史をたどります。